

書名	凍りのくじら	出版年 (西暦)	2008
著者・編者	辻村深月	出版社	講談社
学部・研究科	理学部	学年	4年
<p>この本は、辻村深月という作家を好きになったキッカケの1冊です。最初、友人に勧められて読んでみたのですが、文章や登場人物のキャラクターなどとても魅力的で、すぐこの世界に引き込まれてしまいました。</p> <p>泣けます。泣きました（自分の涙腺が脆いというのもあるのですが）。誰かが死んでしまおうとか、せつなくなるからとかそういった類の感動ではなく、人と人のつながりみたいな、どこか温かくなる感動です。</p> <p>また、この物語はドラえもんの道具やエピソードがいたるところにちりばめられています。個人的に、ドラえもんは大好きなので、とても感情移入しやすかったです。</p> <p>この本の帯に『誰と一緒にいても本気で楽しいと思えないあなたへ』とありました。主人公はこんな感じの人です。すごく冷めています。なので、こう思ったことのある人に、特に読んでもらいたい作品です。</p> <p>辻村さんの小説はほかにもいろいろあるのですが、今のところ全敗中（要するに全部泣かされています）です。すごくいい作家さんなので、是非ほかの作品も読んでみてください。ちなみに、この『凍りのくじら』を読んだ後に、『スロウハイツの神様』を読むことをオススメします。</p>			